

別紙様式 1

1 学校の現況

令和 5 年度学校経営計画表

学校番号	38		学校名		県立玉造工業高等学校				課程		全日制		学校長名		大塚 哲蔵						
教頭名	平間 和雄												事務長名		小林 武男						
教職員数	教諭	34	養護教諭		1	養護助教諭	0	常勤講師	4	非常勤講師	6	実習教諭 実習講師 実習助手		8	事務職員	3	技術職員等	4	計	60	
生徒数	小学科		1年		2年		3年		4年		合計		合計クラス数								
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女									
	工業に関する学科		94	7								94	7	3							
	機械科				36	1	16	0			52	1	2								
	機械・エネルギー科						7	0			7	0	1								
	電気科				40	0	33	1			73	1	2								
	情報技術科				30	2	26	3			56	5	2								

2 目指す学校像

至誠・勤勉・協和の校訓を基本に、現代社会における工業の果たす役割を理解させ、適切な技能及び技術を習得させる。また、すぐれた個性の伸長と豊かな人間性の育成に努め、社会の発展に寄与する産業人を育成する。

3 三つの方針(スクール・ポリシー)

「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	○ 知識や技術、豊かな心と協調性を身につけた規律ある工業人の育成 ○ 意欲を持って学習や資格取得、学校生活に取り組み、地域社会で活躍できる工業人の育成
「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	○ 地域社会で活躍できる工業人として必要となる基礎的な知識・技術を身につけさせる ○ 学習活動や特別活動、部活動を通して、地域社会で活躍できる工業人として必要な人間力や規範意識の育成 ○ 工業人としての知識・技術の向上を目指し、資格取得や競技会等へ積極的に取り組む ○ 卒業後の進路を考慮した計画的な進路指導の実現
「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	○ 工業に興味を持ち、学業などに積極的に取り組み、ものづくりや資格取得に目的意識を持って取り組む意欲のある生徒 ○ あいさつができ、教員や友人の話を素直に聞くことができる生徒 ○ 規律の意義を理解し、互いの人権を尊重し、学校や社会のルールを守ることができる生徒 ○ 自分の進路実現を目指し、日々努力する生徒

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む）

項目	現状分析	課題
教 務	基礎学力向上を図るため、数学Ⅰ・Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱで習熟度別授業を展開し、基礎学力の定着に努めている。また、令和3年度より化学基礎においても習熟度学習を展開している。授業へのICT機器の積極的な導入もあり少しずつはあるが基礎学力や学習意欲の向上につながっていると思われる。単位未修得の生徒も昨年度より半減している。しかしながら、まだまだ家庭学習の定着化や基本的な生活習慣が確立していない生徒が多く、保護者同席の欠課指導は10名を超える生徒がいる。	・今年度も習熟度授業を実施し、きめ細かな指導を行い基礎学力の向上と定着を目指す。また、オンライン学習ソフト「すらら」を導入し、家庭学習や振り返り学習など生徒の個に応じた学習支援を展開する。 ・学習内容の精選やICT機器、特に教育用タブレットPCの効果的な指導の工夫を図り、自ら学ぶ主体的な授業態度を育むとともに、対話的で深い学びに繋がる授業を展開する。 ・生徒に明確な進路目標を持たせたり、資格取得に向けた補講を行うことで、学習に対する関心や意欲を向上されるとともに家庭での学習の習慣化を目指す。
生徒指導	特別指導件数はほぼ横ばい傾向である。また、いじめに関する案件はなく、他の重大案件も減少傾向にある。交通関係では、大きな事故は無いものの、登下校時のバイクの乗り方に対する外部からの苦情もあるため、講話を実施し、生徒が交通ルールを確認する機会を設ける必要がある。生活では、その場の雰囲気や気の緩みで社会の規則や学校の校則を守れないケースが見られるため、遅刻指導、服装指導、頭髮指導など、日頃から声掛けを行い、学校全体で継続的に指導していく必要がある。その他の事案として、SNSに関連した友人間のトラブルもあることから、情報モラル教育も課題である。	・校内でのバイク講習に加え、原付バイク実技講習会に参加することにより交通安全教育の充実を図り、交通安全の意識を向上させる必要がある。また、警察と連携し、交通安全講話を実施するなど、生徒が交通ルールを確認する機会が必要である。 ・いじめや暴力の早期発見・未然防止のため、日頃の生徒観察や声掛け、アンケート、担任との面談の活用など「チームとしての学校」として確立する必要がある。 ・安全・安心の学校づくりを継続するとともに、基本的な生活習慣や規範意識を身につけさせる必要がある。また、情報講話等を通して、SNSでの情報の取り扱いなど、情報モラル教育をする必要がある。
進路指導	就職においては、昨年度県内求人だけで595社、829件に達し、過去最高を記録している。昨年度から生徒がスマートフォンやタブレット端末から求人を確認できるように、求人票を電子化して管理するシステムを導入したが、不具合も多くシステムの改善依頼と校内マニュアルの作成が急務となっている。しかし、このシステムの導入は、今後の生徒の就職活動と増加する求人对応する進路指導部職員の負担軽減に一役買ってくれると期待している。本校は毎年約7割の生徒が就職を希望しており、地域の産業を支える学校となっている。しかし近年は感染予防のため進路行事の縮小、または中止となる行事が多く、働くことへの意識づけや進路を考える機会が失われている状況である。昨年度の3年生は、就職を希望する生徒の約4割が、3年生春の時点で希望職種未定という状況であった。 進学においては、4年制大学に9名、専門学校に29名が指定校推薦や公募推薦、総合型選抜（旧AO）で合格し、専門学校の3割の生徒は医療福祉や調理、美容や声優など工業以外の学校に進学している。	・求人管理システムの校内運用マニュアルの作成および、管理企業との連携を図ることで、システム機能の向上、改善に努める。 ・日常的な進路業務の改善と日程の見直しを検討し、業務の効率化を図る。 ・新型コロナウイルス感染症法上の位置づけの変更により、ガイダンスや進路講話、企業説明会などの実施方法を見直し、生徒に卒業後の進路に対する意識づけを行い、早期に進路目標を立てられるように努める。 ・各学年と情報交換を行い、組織的で統一した進路指導と入学から3年生まで一貫した指導ができるように連携を図る。 ・ハローワークや外部関係機関との連携強化を図り、最新情報の発信に努める。
保健厚生	コロナウイルス感染症対策が緩和されつつあるが、今後も注意を払っていく必要がある。また、近年は地震や大雨による自然災害や、様々な事故が見受けられる。各部署と連携し、様々な災害の対策について検討を行い、防災体制の確立と事態に備えた準備・訓練を行っていく必要がある。今後は、想定される各種災害に対する防災体制の確立と防災マニュアルの見直しを図り、各訓練の内容をより効果的なものとしていく。また、多様化する生徒に伴い、特別な支援を要する生徒も増加傾向にある。今後、個に応じた支援ができる体制を維持していく必要がある。	・新型コロナ感染防止を考えて校内の衛生面に注意を払う。 ・各部署との連絡を密にし、事故・災害に迅速に対応できる体制を維持する。 ・防災避難訓練を年に2回実施する。 ・特別支援の充実を図る。学年・教科と連携し支援を必要とする生徒の早期発見と適切な支援を行う。 ・想定される各種災害に対する防災マニュアルを検討・作成する。
渉 外	・感染防止対策を施し、マナーアップ運動を3回企画し全て行うことができた。各地区から更なる協力を仰ぎ、本運動の充実を図りたい。 ・広報誌の大幅にリニューアルを行って以来年2回の発行を継続している。今年度から図書館業務が新たな仕事に加わり仕事の効率化を検討していく必要がある。 ・コロナウイルス感染拡大により、会議の開催ができなかったが5月8日以降は5類に移行するため従来の活動が再開される見通したが、業務の精選・効率化・簡略化について検討していく必要がある。 ・チャーターバス2便を復活および長期休業中の運行によって、課外活動及び部活動の参加率を伸ばすことができた。	・感染防止対策を徹底しながらPTA活動（あいさつ運動、研修旅行、総会等）を充実させる。 ・保護者の積極的な学校行事参加（文化祭等）を促す。 ・PTA・後援会会則の見直し、またそれらに関わる業務について、精選・効率化・簡略化を図る。 ・チャーターバスの安全運行を徹底する。またバス会社への補助金についても更なる検討が必要である。
特別活動	部活動については、各部活動顧問の工夫や努力の結果、部活動の継続率は高い。しかし、部活動加入率は微増となっている。さらに部活動加入率を向上させるために部活動紹介の行い方や顧問会議の運営を工夫していきたい。 学校行事については、キャリア・パスポートを活用し、生徒が自発的・自主的に学校行事に参加できるように促す。また、学校ホームページを活用し本校の部活動や学校行事を積極的に校外へ発信する。	部活動については、部活動紹介の行い方を工夫し、部活動の加入率を上げ活性化を目指す。また、部活動顧問会議を定期的に開催し、連絡を密にして学校全体の部活動の継続率を上げたい。さらに、ホームページを活用し、地域の方々に本校の活動を知っていただけるように工夫する。 学校行事については、新型コロナウイルス感染症も収束に向いていることから、可能な限り学年ごとから学校全体で行えるようにしていきたい。また、キャリアパスポートを活用し、生徒達が自主的に参加できるように促す。
働き方改革	部活動の指導、資格試験・各種検定試験の指導、生徒・保護者対応、学校行事の運営など多くの業務を担当し時間外労働が多くなっている職員がいる。生徒数およびクラス数の減少に伴い教職員数も減っているため、教職員一人一人の負担は増加し続けている。各校務の業務内容を明確化し、学校行事の簡素化や各種会議の効率化などが必要である。	ストレスチェックの結果、高ストレスを抱える職員が複数おり、職員のストレス解消が課題となっている。学校の規模や専門性を考えた校務の精選を図ることで時間外労働の削減に取り組むとともに、休暇を取得しやすい職場の雰囲気醸成し職員のワーク・ライフ・バランスの推進を図っていく。

5 中期的目標

- ・基礎学力の向上を図る。
- ・ICTを活用した、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の実現
- ・基本的な生活習慣の確立と規範意識の育成を図る。
- ・学校の教育活動全般をとおして、キャリア教育の充実を図る。
- ・部活動や特別活動を充実させる。
- ・地域と連携を図り、開かれた学校づくりに努める。
- ・校務の改善、学校行事の見直しと職員のワーク・ライフ・バランスの推進を図る。

6 本年度の重点目標

重 点 項 目	重 点 目 標
分かる授業の展開による基礎学力の向上と学習意欲を向上させるための授業改善を図る。	① 生徒の実態に応じ、学習内容を精選して基礎学力の向上を図る。 ② 各教科内で研修を充実させ、分かる授業の展開と教科間の連携を図る。 ③ 学習規律の向上を目指すとともに、習熟度別授業の充実を図る。 ④ 生徒の主体的に学ぶ意識を育むため、家庭学習の定着化を図る。 ⑤ 資格取得指導の充実を図る。 ⑥ 進学希望者へ適切な指導を計画実施する。 ⑦ 生徒による授業評価（授業満足度）における肯定的評価の向上を図る（A90%以上B80%以上C70%以上D60%以上E60%未満）
基本的生活習慣の確立と規範意識の育成を図るとともに、交通安全教育の推進に努める。	⑧ 挨拶の励行と欠席・遅刻・早退の減少に努める。 ⑨ 頭髪や服装等を正そうとする意識を身につけさせる。 ⑩ 社会人として必要な公共のマナーを身につけさせる。 ⑪ 保護者や関係機関との連携を密にとり、生徒の安全確保に努める。 ⑫ 交通安全教育を推進し、交通安全に対する意識の向上を図る。
望ましい勤労観や職業観の育成に努める。	⑬ 全学年を通じ、計画的に進路に対する意識向上を図り、希望進路の実現を図る。 ⑭ 企業見学やインターンシップを実施、また外部講師による講話、キャリアパスポートの活用などキャリア教育の充実を図る。 ⑮ 企業及び大学等の情報を広く収集し、進路選択に役立たせる。
学校行事の充実ならびに、部活動及び奉仕体験活動の活発化を図る。	⑯ 学校行事を通して生徒と保護者や地域との交流を図り、より充実感や達成感のあるものにする。 ⑰ 部活動加入率を高め、活性化を図る。 ⑱ 奉仕体験活動を充実させる。 ⑲ 生徒の委員会活動を活発にする。 ⑳ キャリアパスポートの活用により、自発的・自主的な学校行事への参加を促す。
中学校や地域と連携を図り、開かれた学校づくりに努める。	㉑ 近隣中学校並びに地域への広報活動を充実させる。 ㉒ 小中学校への出前授業を行う。 ㉓ 行事を本校及び教育委員会のホームページ上で発信する。 ㉔ 生徒・保護者及び教職員の相互の信頼関係を深める。 ㉕ 個人情報の保護、管理の徹底に努める。
安全で衛生的な環境作りを目指し、心身ともに健やかに学校生活を送れるように努める。	㉖ 心と体の健康に留意し、健全な生活を送れるような体制作りに努める。 ㉗ 安全で衛生的な環境作りに努める。 ㉘ 不測の事態に備え、防災意識を高める。
働き方改革の実現に向け、校務の改善、簡素化などの見直しに努める。	㉙ 各校務のマニュアルの作成及び内容の明確化を図る。 ㉚ 校務の簡素化など見直しを行う。 ㉛ 会議の効率化を図る。 ㉜ 勤務時間に対する意識を高め、時間外勤務の短縮に努める。